

「シラエビ」 富山だけの”お宝”資源

技量を要する漁

シラエビは水深200～300mの冷水中に生息し、2年半～3年の一生を泳ぎながら過ごすといわれる。県民にはなじみが深いですが、専門の漁業は全国でも富山県だけでしか行われていない。しかしシラエビは、日本周辺にも分布している。また、これとよく似たエビは地中海にも生息し、スペインやイタリアでは漁業も行われているらしい。

富山湾での最近の漁獲量は年間600～700トン、産額約5億円であるが、かつては300トンに満たないこともあった。

シラエビ漁は新湊、岩瀬、水橋のすぐ沖の深みで、専用の底曳網で獲られている。この網は海底の谷間(海底谷)の深みに、海底から離れて集まっている群れを、大きな口を広げ素早くすくい上げて獲るよう工夫されている。

20世紀初頭から行われているこの漁法は、現在でも改良が重ねられている。その上この漁を行うには、魚群探知機で群れを見定め、刻々変化する潮流を計算に入れ、さらに秒単位で網を引き上げるタイミングを計るなど、デリケートで高度な技能が要求される。

漁場となる海底谷は、庄川、小矢部川、神通川、常願寺川の河口の沖に、川筋に続くように刻まれている。県水産試験場の調査では、海底谷にシラエビが多く分布することが明らかにされていて、日本唯一のシラエビ漁場は、富山湾のユニークな自然環境によって支えられ、維持されていると言える。未永くシラエビの恩恵にあずかるためには、資源管理や漁場保全に努める必要がある。(内山勇)



船に引き上げられる直前のシラエビ